

5

環境コミュニケーションの推進による 地域社会・お客さまとの信頼関係強化

地域社会・お客さまとの環境コミュニケーション

信頼していただける企業となるために、地域社会・お客さまとのつながりを大切にまいります。

地域とともに取り組む環境活動

当社の各事業所では、地域の皆さまとともに、植林活動や清掃活動などの様々な環境活動に取り組んでいます。2014年度は、557件の環境活動を実施し、地域の方々を含めて約1万9,400名に参加いただきました。

また、当社ではゴーヤなどのツル性植物をカーテンのように生育させる「緑のカーテン」を地域に広める運動を行っています。

新仙台火力発電所 地域の小学生とともに植樹祭を開催

新仙台火力発電所（宮城県仙台市）は、6月の環境月間行事として、近隣の小学生とともに発電所構内で植樹祭を開催しました。

この植樹祭は、2015年12月の営業運転開始を目指し工事を進めている3号系列新設工事の構内緑化にあわせて実施したもので、小学生78名、グループ企業を含む社員30名が、構内に設けた高さ5mの盛り土に、タブノキやトベラ等の広葉樹700本を植樹しました。



植樹祭の様子

緑のカーテン運動

ゴーヤなどのツル性植物を、建物の窓の外や壁面に張ったネットなどに這わせるように生育させた「緑のカーテン」は、自然の力を利用した省エネ対策です。当社では、「緑のカーテン」を地域に広める運動に2010年度から取り組んでいます。2015年度も、本運動に参加し、「緑のカーテン」の栽培に取り組んでいただける方を募集したところ、多くの地域の皆さまにご参加いただきました。また、当社104事業所、企業グループ8社においても、事業所での栽培や、小学校の児童の皆さんとの栽培活動など地域の皆さまとともに取り組んでいます。

当社事業所の「緑のカーテン」の生育状況や、地域の皆さまとともに取り組んだ活動の様子などは、当社ホームページで紹介しています。



緑のカーテン運動

<http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/g-curtain/index.html>

【上】当社事業所における栽培の様子（石巻技術センター）
【下】保育園の児童の皆さんと育てた緑のカーテン（弘前営業所）

TOPICS

のびる 東松島市立野蒜小学校の「緑のカーテン」栽培をお手伝い ～被災地の復興を支援する取り組み

石巻営業所（宮城県石巻市）では、東日本大震災による津波で大きな被害を受け、2012年1月から仮設校舎で授業を行っている東松島市立野蒜小学校において、夏場の暑さ対策に有効な「緑のカーテン」の栽培を2013年からお手伝いしています。

2015年5月に、6年生の児童の皆さんとともにゴーヤと琉球アサガオの植栽を行いました。学校からは、「仮設校舎のため、午後の日差しが入ると室温が上がってしまう。緑のカーテンが大きく育ち、涼しくなると助かります。」とのお言葉をいただき、植栽に参加した児童の皆さんからは、「早く大きくなって教室を涼しくしてほしい。いっぱい育てほしい。」といった声が聞かれました。



児童の皆さんとの植栽の様子（2015年5月）



「緑のカーテン」の生育状況（2015年7月）

5

環境コミュニケーションの推進による 地域社会・お客さまとの信頼関係強化

地域社会・お客さまとの環境コミュニケーション

信頼していただける企業となるために、地域社会・お客さまとのつながりを大切にまいります。

環境・エネルギーに関するコミュニケーション

環境問題は、私たちのエネルギー消費と密接に関係しています。当社では、身近な電気・エネルギーをテーマに、日本のエネルギー事情や資源など、地球規模の問題について、地域の皆さまと一緒に考える活動に取り組んでいます。

エネルギー出前講座

小学校・中学校や地域の学習施設などに社員がお伺いし、暮らしの中における電気の役割をはじめ、家庭に電気が届くまでの道のりや発電の仕組み、エネルギーと地球環境の関わりなどについて、分かりやすく説明を行っています。手回し発電機や発電所模型などの実験器具を使った体験型の学習会です。



エネルギー出前講座 http://www.tohoku-epco.co.jp/syakai/05_energy.html

発電所見学会

電気の工場である“発電所”の見学を通じて、普段ご使用いただいている電気がどのような仕組みでつくられているのかをご覧ください。それぞれの発電方法のメリット・デメリットを知ること、環境問題を考えるきっかけ作りにもなっています。



東北電力PR館のご案内 <http://www.tohoku-epco.co.jp/pr/>

TOPICS

東北電力グループふれあい環境イベント「エコライフパーク2015」を開催

当社企業グループは、6月の環境月間にあわせて、2015年6月4日～6日までの3日間、宮城県仙台市にある東北電力グリーンプラザを会場に東北電力グループふれあい環境イベント「エコライフパーク2015」を開催しました。

このイベントは、「Think & Act Together～環境について、ともに考え、行動しよう～」をテーマに、身近な暮らしの中でできるエコ・省エネ活動等を地域の皆さまに知っていただき、ともに取り組んでいただくきっかけ作りとして開催したものです。

ご来場いただいたお客さまからは、「子供達が興味を持つ内容・イベントで楽しかった」「環境への取り組みについて知ることができてとても興味深かった」などの感想をいただきました。



東北電力グループふれあい環境イベント「エコライフパーク2015」の様子

地域社会・お客さまとの環境コミュニケーション

信頼していただける企業となるために、地域社会・お客さまとのつながりを大切にまいります。

TOPICS

東北のみどりの復興を応援したい！社員ボランティア活動「海岸防災林復活活動」

東日本大震災の津波により、美しい景観を保ちながら様々な自然災害から私たちの命や財産を守ってきた太平洋沿岸の「海岸防災林」は壊滅的な被害を受けました。

海岸防災林の浸水被害面積は、東北地方だけで2,825ヘクタール、東京ドーム約600個分に相当します。被災林の再生には宮城県だけでも600万本以上の苗木が必要と言われており、苗木の供給不足が懸念されています。*

一方で、当社は、東北地域で事業を営む企業として創立から約60年間、一貫して地域とともに歩んでまいりました。当社社員の多くは、この「地域とともに」という理念のもと、「少しでも復興の役に立ちたい」といった強い想いを抱いています。

「震災によって失われた豊かな『海岸防災林』の復活を望む地域の方々の想い」、「東北の復興に積極的に関わり復興を支援したいという社員の志、想い」、これをマッチングして、被災地に「みどり」と「笑顔」を届けたい。このような考えから生まれたのが、社員ボランティアによる「海岸防災林復活活動」です。

横浜国立大学名誉教授 宮脇昭氏の呼びかけにより設立された一般社団法人森の防潮堤協会様（代表理事：仙台市金剛竇山輪王寺住職 日置道隆氏）よりご支援をいただきながら、職場や社員の自宅・寮などで主にシラカシを育苗し、日々の生長を見守りながら、1本でも多くの海岸防災林の復活を目指して活動しています。

※出典：林野庁 東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会「今後における海岸防災林の再生について」



植樹祭の様子（上段／2015年3月福島県南相馬市鎮魂復興植樹祭、下段／2015年5月宮城県岩沼市第3回千年希望の丘植樹祭）

TOPICS

「東北の“みどりの復興”応援展」を開催

東日本大震災の津波で被害を受けた海岸林の再生にあたっては、国、県、市町村などに加えて、地元の方々、NPO、民間企業など、さまざまな団体が知恵を出し合いながら取り組みを進めています。

このような海岸林再生の取り組みを多くの方々に知ってもらいたい、そのような想いで、6月の環境月間に開催した東北電力グループふれあい環境イベント「エコライフパーク2015」において「東北の“みどりの復興”応援展」を開催し、宮城県内の海岸林再生などの取り組みを紹介しました。



東北のみどりの復興応援展の様子